

平成30年11月22日

あきる野市議会議長 殿

会 派 名 公明党

代表者名 増崎 俊宏



会派の（調査研究 研修）報告書

このことについて、下記のとおり実施したので報告します。

記

1 調査研究または 研修実施日	平成30年11月14日（水） ～ 平成30年11月15日（水）
2 調査研究または 研修の場所	宇都宮市文化会館（栃木県宇都宮市明保野町7-66）
3 調査研究事項 または研修名	●第13回全国市議会議長会研究フォーラム in 宇都宮 テーマ「議会と住民の関係」
4 参加者氏名 （3名）	増崎俊宏 田中千代子 大久保昌代
5 調査研究または 研修の概要及び 感想等	別紙のとおり



【概 要】

●プログラム (初日)

1. 基調講演 宮本 太郎 氏 (中央大学法学部教授)

「地域共生社会」をどうつくるか～2040 年を超える自治体のかたち

2. パネルディスカッション

「議会と住民の関係について」

パネリスト：今井 照 氏 (公財) 地方自治総合研究所 主任研究員

本田 節 氏 有限会社 ひまわり亭代表取締役

神田 誠司 氏 朝日新聞大阪本社地域報道部記者

小林 紀夫 氏 宇都宮市議会議長

コーディネーター：江藤 俊昭 山梨学院大学大学院研究科長・法学部教授

●プログラム (2 日目)

1. 課題討議

「議会と住民の関係について」

パネリスト：桑田 鉄男 氏 久慈市議会副議長

伊藤 健太郎 氏 新潟市議会議員

ビアンキ アンソニー氏 犬山市議会議長

道法 知江 氏 宇都宮市議会議長

【初日を終えて】

基調講演では、人生 100 年時代と叫ばれる中、定年はひとつのターニングポイントとなるが、高齢者の幸福感が広がらない。理由の一つが困窮化。現在 86 万人の 65 歳以上の生活保護受給者が 2040 年には 200 万人という見通しには驚いた。もう一つの理由が孤立化。高齢单身男性は、会話頻度も少なく、孤立化しやすく、女性は会話好きなのでその逆とのお話は納得できる。支える側の現役世代も雇用の不安定、非婚、出生率低下による世代の減少に陥り、肩車ではなく、重量挙げ社会となってしまうと警鐘を鳴らす。そうならない為に、皆が人財のまちへ、ずっと出番のあるまちへ、色んな縁でつながるまちにし、高齢者人口を元気人口にと提唱。現役世代が減少する中、そうせざるを得ない状況に

なるだろうと感じた。特に、業務を分解して、分業制にする「ユニバーサル就労」の考え方は高齢者のみならず、障がい者にとっても必要なことだと感じている。本市においても、様々な「しごと」を再検証し、高齢者にできることや障がい者にできることは、「しごと」を振り分ける。現役世代の業務がスリム化や効率化されることで、世代人口の減少による業務負担増のリスクを回避することができるかもしれない。また、「保護する福祉」から「元気にする福祉」への言葉も印象的であった。

パネルディスカッションでは、少しテーマからずれた議論になっていたように思ったが、議会議員に求められる役割など重要なキーワードも多々あった。

「議会は多様な住民の代表たり得るのか」との問いかけがあった。現状では、議会に占める女性の割合は低く、若者の進出も少ない。魅力不足といえそれまでだが、多様な人材がいる議会が理想的である。そういう環境整備をしていくことの重要性を指摘するとともに、議員個人に向けて広聴機能の向上を言うパネリストがいた。また、多様な意見を取り入れる装置（仕組み）が必要との意見も出ていて、全くそのとおりだと感じた。議員が市民の代表であるために議員個人の広聴機能の向上と議会の多様な意見を取り入れる装置の設置などは今後、検討していきたいと思う。

【二日目を終えて】

◆課題討論では、「議会と住民の関係について」をテーマに討論された。コーディネーターの江藤俊昭氏は、議会改革が着実に進んでいるとして、北海道栗山町が最初に制定した議会基本条例より12年が経過したが、今では800の自治体が制定されるに至ったことを通して、閉鎖的な議会から住民参加の議会へと大きく開かれていく全国的な流れを語った。



◆事例報告として、久慈市議会副議長の桑田鉄男氏は、主な議会改革の取組みについて語った。NHKあまちゃんの舞台となった地域で、2016年より議会改革に取組み、条例に方言をいれた「議会じゃじゃじゃ基本条例」や、住民と議会が協働する場「かだって会議」などのユニークな取組みや、全国初となる袖ヶ浦市議



会との議会間友好協定を結んだ、様々な議会改革の取組みについて紹介した。

平成 24 年より議会報告会を実施してきたが、参加者が集まらず、前向きに楽しい話し合いには到底ならなかったそうだ。議員の平均年齢は 65 歳以上であり、若い声がなかなか届かなかったので、働き盛りや子供を持つ親世代の市民に、未来にむかってどんな町にしたいのか、そのための課題などを語ってもらう「かだつて会議」は、久慈地方の方言で「語る」「一緒にやる」という意味があり良いネーミングだ。参加した市民の中から、その後、議員に当選した人もいるそうで、久慈市の未来を考える人材発掘の契機になったと感じる。

◆新潟市議会議員の伊藤健太郎氏は、新潟市議会主権者教育推進プロジェクトについて紹介した。平成 27 年に初当選した議員 13 名が、議員として、学校等と協働で主権者教育を進められないかと発案し、当時の高橋議長の強いリーダーシップのもと、市議会として対応することが決定された。全議員の勉強会や研修の後、実行委員会、プロジェクトチームで具体的な実施内容等を検討していった。平成 28 年 12 月に市内の中等教育学校において初回のプログラムを実施し、模擬市議会で、合意形成・意思決定について学んでもらった結果、生徒へのアンケート調査では、市議会への関心があったのが 19%だったが、92%へと大きくあがったことが目を見張る。



◆犬山市議会議長のビアンキ アンソニー氏からは、市民参加と議会機能向上について紹介してもらった。アメリカ出身のビアンキ氏は、外国語指導助手プログラムにより来日。犬山市役所教育委員会に勤務し、様々な提案をするも「前例がない」と却下され、政治の場から教育を変えようと市議会議員選挙に立候補してトップ当選を果たし



た経緯を持つ。アメリカと比べて、日本の議会は受け身で、行政とのバランスが良くないとして、議会は与えられた権限を発揮できるように、議員間討議、政策立案・政策提言の力向上・市民参加を掲げて取り組んでいった。

成果の一つとして、女性議会や、市民フリースピーチがある。市政に対して議場で議員に対し、市民が発表できる場の市民フリースピーチは、クレーマーなどは全くなく、要望もなく、市全体の街づくりの話が多かったそうで、スピーチの内容から、一般質問につなげた議員も多く良い意見ばかりだったそうだ。開催は平日の夜や、日曜の朝などで、職員は呼ばずに開催したのも画期的だと感じた。スピーチの意見は議員間討議をし、対応し、協議結果はホームページなどで公開している。アンソニー氏のチャーミングな人柄で、議員を引っ張り、様々な取組みが進んでいったのだろうと感じた。

◆竹原市議会議長の道法知江氏からは、女性と議会との関係～お互いが尊重し認め合う議会に～とのタイトルで報告があった。広島県竹原市は今年で市政 60 周年。人口 25,000 超の市である。議員定数は 14 人。道法氏の生い立ちや、政治の世界に飛び込むことになった経緯を話してくれた。議員 11 年



目にして女性議長として就任。政治こそ女性の力が必要と訴えた。何より報告の最後に「議員は大変な仕事だけれど、本当に素晴らしい仕事だ」との言葉を紹介していたことが印象に残った。

◆閉会式の後、日光市 近代化産業遺産・世界文化遺産活用事例視察に参加した。

日光東照宮、日光二荒山神社、日光山輪王寺の二社一寺の 103 棟の「建造物群」とこれらを取り巻く遺跡が、平成 11 年に世界遺産委員にて登録決定されている。



第13回
全国市議会議長会
研究フォーラム



日時 2018年
11月14日(水) 13:00~(受付・開場12:00~)
15日(木) 9:00~(開場8:30~)

会場 宇都宮市文化会館



■主催:全国市議会議長会
■後援:総務省
■実施:第13回全国市議会議長会研究フォーラム実行委員会